

男女共同参画委員会アンケート調査

2015年

- ・目的：本アンケートは、病理医の休職中、離職、復職の実態を把握し、問題点の抽出および対策を講じるための調査である。
- ・休職の定義：1か月以上の休職。今回、産休や育休は休職に含まない。
- ・復職支援プログラム：復職希望病理医に対して1日～1週間程度、病理部門の見学、講義、実習などを提供する。
- ・アンケート期間：4月1日～4月15日の正午
- ・回収方法：香川大学病理診断科・病理部あてのFAX又はE-mail。

・対象：日本病理学会認定病院・登録施設(Mail)、各支部(Mail)、日本病理学会ホームページ

セッションA(結果)

質問1 性別 男性 118, 女性 63 (計181)

質問2 年齢 20代 5, 30代 42, 40代 54, 50代 46, 60代以上 34

質問3 勤務地 37都道府県+米国

質問4 主たる業務 病理診断157, 研究12, その他12

質問5 病理経験年数 <10年 39, <20年 56, <30年 43, <40年 36, 40年以上 7

質問6 病理専門医 病理専門医155, 非専門医26

質問7 休職歴、産休・育休の経験

現在休職中 4, 過去休職歴あり 16, 産休後に復帰 22、
なし 136, 休職+産休 3

質問8 同僚で休職歴(産休・育休以外)

あり 85, なし 67

質問9 質問8でありと答えた方に休職・離職の理由

子育て 34, 介護 5, 体調 32, 留学 7, その他 13

質問10 産休・育休後に復帰した方あるいは復帰予定の方への質問。復職時の心配事、条件、体験談について。

・労働環境の整備

勤務時間短縮、子供の緊急時・通院時のサポート体制、
当番・オンコール体制の考慮、土・日曜日の解剖免除

・労働支援の整備

院内・院外保育所、学童時の環境整備、家族の支援

・病理医不足

複数病理医体制の構築

・復帰時

復職支援・再教育プログラム

・生涯教育

休日・夜間の勉強会・研修会への参加、学会・研修会のインターネット配信

・学会時の託児所

小学生も対象拡大を希望

・病理医研修中での子育て不安

専門医取得、出産、子育てとの両立、非常勤勤務としての将来

質問11 全ての方に質問 自由意見

・病理医資格

資格更新の援助、専門医再資格認定、病理医生涯教育の充実

・病理医数

マンパワー不足、病理医不足、人手不足、絶対数不足

・病理医勧誘

働きやすい環境作り、学生へのアピール、他科からの受け入れプログラム作成

・職場環境・待遇

産休後の待遇改善、産休不可能な職場の改善、働きやすい環境作り、上司や同僚の理解

・病理医ネットワーク

情報の共有、バックアップ体制、支援プログラム、病理医救済システム

・病理学会

プログラムの作成

・病理医の復帰

復帰しやすい環境作り、職場・家庭の理解

・その他

介護問題、常勤→非常勤(学童への就学時)、非常勤への待遇改善、病理医(医師)への偏見、学会の平日開催

◎所属長への質問;部門内での休職・離職者の有無
いる 13, いない 15

セッションB(現在休職中、離職中の方)

1. 休職・離職期間

<6か月 1, 7~12か月 1, 1~5年 1, 6~10年 3 (計6)

2. 休職・離職の理由

家族の介護 1, 体調不良 1, 留学 1

3. 希望される支援

短時間勤務制度 3, 複数人勤務体制 2, 他の病理医の勤務状況などに関する情報提供 4

4. 復職予定

ある 1, ない 2, 未定 3

5. 復職の予定ある方の復職先 前職場 1

6. 復職の予定のない方の復職希望 3

7. 復職支援プログラムへの参加希望

希望 5, 参加しない 1

8. 病理学会紹介の復職アドバイザーの利用希望

希望 4, わからない 2

9. 復職時に相談する個人、利用する機関・企業のサービスや制度の有無 ある 5, ない 1

10. 相談先、あるいは利用しているサービス

前職場の上司・同僚 2, 出身大学の教員・同窓生 1, 大学・医師会の復職支援機関 1, 病理学会の求人情報 0, 雑誌の求人情報、インターネット上の就職斡旋サイト 0, 大学や病院個々の求人情報 0, その他 1

11. 復職支援プログラムの利用 なし 6

12. 自由意見 記載なし

セッションC(過去に休職、離職したことのある方)

1. 休職・離職期間

<6か月 5, 7~12か月 3, 1~5年 10 (計18)

2. 休職・離職の理由

子育て 7, 家族の介護 2, 体調不良 4, 留学 4, その他 1

3. あった方が良い支援

短時間勤務制度 13, 複数人勤務体制 15, 託児所 8, 他の病理医の勤務状況などに関する情報提供 9, その他 1

4. 復職先

前職場 10, 新しい職場 7

5. 復職時にお世話になった個人、役立った機関や企業

あり 12, なし 6

6. 復職時にお世話になった個人、役立った機関・企業

前職場の上司・同僚 11, 出身大学の教員・同窓生 3, 大学・医師会の復職支援機関 0, 病理学会の求人情報 0, 雑誌の求人情報、インターネット上の就職斡旋サイト 0, 大学や病院個々のHPなどの求人情報 0, その他 0

7. 復職支援プログラムの利用

しなかった 14, わからない 1, その他 1

8. 復職支援プログラムを利用しなかったと答えた方

必要なかった 5, 知っていれば利用したかった 2, わからない 4, その他 2

9. 病理学会が紹介する復職アドバイザーがいたら利用するか

利用する 3, 利用しない 3, わからない 11, その他 1

10. 自由意見

- 復職までの再教育 (e-learning)
- 専門医試験に必須の解剖・細胞診講習会の e-learning、単位性の導入
- 一人病理医への支援体制
- 支援体制のない病院への援助
- 大都市基幹病院への病理医集中の問題

今後の課題

- 勤務体制の充実
- 託児サービスの充実・継続
- 就業継続・復職支援の充実
- 相談窓口の充実
- 講演会・座談会などの提案
- 啓発・広報・ネットワーク構築
- 学生勧誘、病理医育成の継続